

企業支援 ウォッチ

株式会社ウッドサークル

少数精鋭の組合や中小企業だからこそBCPの策定は必要です！ ～事業継続計画 (BCP) 策定事例～

BCP (Business Continuity Plan) とは、企業が自然災害・感染症などの緊急事態に遭遇した場合に、中核となる事業の継続・早期復旧を可能とするために、平時や緊急時に行うべきことを取り決めた計画のことです。

BCP策定のメリットは、①自社の経営や組織を見直す契機となる、②業務改善や取引先・金融機関等への信頼度が向上する、などのメリットがあります。

福岡県中小企業団体中央会は、県内の企業や組合のBCP策定を支援しています。

今回は、昨年度BCPを策定した株式会社ウッドサークル 江頭新太郎社長にお話を伺いました。

—株式会社ウッドサークルについて

当社は、平成10年に大川市に設立しました。地域の皆様の健康で幸せな生活に事業を通して貢献したいという思いのもと、「社会貢献できる企業」を理念に掲げて事業を行っています。

主に以下の事業を行っています。

- ・健康住宅の木材・建材・家具・建具の製造、免疫、加工、販売
- ・商業施設・医療施設などの別注家具・内装材の製造施工
- ・杉間伐材の食品トレーの製造、販売
- ・健康住宅のセミナー開催

—BCP策定のきっかけと目的

当社は、大川木材事業協同組合の組合員なのですが、中央会が組合向けに開催したBCPセミナー（講師：菌田恭久中小企業診断士）に参加

したことがBCP策定の一つのきっかけになりました。

セミナーを受けるまでは、BCPと言っても災害時の連絡体制程度の認識でしたが、実際には中核事業を絞り込み、災害発生時の被害想定とリスク評価など、策定作業は多岐にわたります。特に中核事業を継続させるための対応策を検討する際は、中核事業を支えている当社の経営資源を洗い出す必要があり、BCP策定は経営に直結する作業になると感じました。

—BCP策定を人材育成に活用

また、セミナーの中で、講師の菌田先生から、BCP策定プロセスにおける気づきに価値があることを教示いただきました。BCP策定作業は経営に直結する作業です。この作業を社員に経験させることで、社内の人材育成に活かしたい



BCP成果発表会の様子



実作業を主に行った河野工場長

と考え、中島取締役指揮のもと、若手を中心としたメンバーを選出しました。

今回の策定作業を通して、若手社員が会社経営を意識しはじめて、組織全体を見渡した仕事の仕方をしてくれるようになったと感じています。

—BCP策定で苦労した点

作業開始時の手の付けどころが悩ましいところでしたが、菌田先生に、弊社におけるBCP策定に必要な情報を一つひとつ交通整理してもらいながら、作業に取り掛かることができたので、スムーズに進めることができたと思います。

また、通常業務が輻輳する中での作業になるため、策定メンバーの負担が増えてしまうことも難しい点でしたが、自然と他の社員がフォローする体制をとるようになり、組織としてのチームワークが向上したようにも感じています。

—BCPを策定して良かった点

BCPを策定することで、従業員やお客様を守れるという安心感が得られたことはもちろんですが、従業員同士の連携が強まったことが特に良かったと感じています。

先にも申し上げましたが、策定作業を通して、



江頭社長からの講評

互いの業務を知る必要があるため、部署内外でのコミュニケーションが活性化します。結果的にお互いがお互いの業務に関心を持つことによって、部署を超えた業務改善や、会社全体がうまく回るように協力しあう意識が今まで以上に強まったように思います。

—今後について

弊社は、福岡県の本社工場だけではなく、千葉県に関東工場があります。今回のBCPでは、本社の被災を想定した計画となっています。今後、南海トラフ地震のリスクへの備えも重要だと考えているので、関東工場のBCP策定も検討していきたいと考えています。



BCP策定における全体管理を担った中島取締役

企業概要

企業名：株式会社ウッドサークル

所在地：〒831-0041

福岡県大川市大字小保356-2

TEL：0944-88-1557

FAX：0944-88-1702

URL：<http://www.immwood.jp/>